

強い綱

2013年6月合併号
 新版 第59号
 編集：
 駿台甲府高等学校
 駿台甲府中学校
 駿台甲府小学校

秋入学より秋始業

駿台甲府高等学校 校長 酒井 徹哉

沖繩慰霊の日

六月二三日、沖繩を訪れました。この日は沖繩慰霊の日。今年はまだまた平日でしたが、沖繩県の公休日となつています。本島南部の糸満市にある摩文仁の丘で、県主催の「沖繩全戦没者追悼式」が行われました。私もそこに参列し、沖繩戦で亡くなった方々に黙祷を捧げました。

県議会議長は安倍首相を前に「沖繩県民は我慢の限界を超えている」と極めて強い調子で基地移転を要求、遺族会代表は「首相の靖国神社参拝を熱望」、知事は平和宣言で「基地負担軽減と日米地位協定の見直し、憲法の平和主義の堅持」を求めました。立場の違いによる主張の差異はあるものの、県民が平和な生活ができるように望む、沖繩の人々の訴えは伝わってきます。

今こそ首相がこの式典に参列しますが、この追悼式が始まったのは一九五二年。しかし、首相の参列は、一九九〇年の海部総理が初めてです。いかに沖繩が軽視されてきたかがこのことから伺えます。

式典会場の隣の「平和の礎(いしづ)」は、沖繩でこの戦争で亡くなったすべての戦没者の氏名、二四万人余りが刻まれています。日本兵として戦った朝鮮半島や台湾出身者や、敵方である米国・英国の兵士の氏名も含まれていて、世界でも類を見ない慰霊碑

です。沖繩出身者は市町村・字別に並んで刻銘されています。慰霊の日、多くの人々が身内の名前が刻まれた礎の前で祈りをささげ、時に臍を囲みます。慰霊の日の原点を感じる光景です。

秋入学を考える

慰霊の日の沖繩は、例年より一週間以上早く梅雨が明け、強烈な真夏の日差しが注いでいました。甲府盆地はまだ梅雨の真ただ中、沖繩と甲府の梅雨は完全に一カ月ずれています。日本の国土がいかに南北に長いかを証明しています。

入学式を秋にしたらという議論をする、すぐに「日本の入学式は桜の季節が似合う」と反対する人がります。しかし、四月上旬に桜が咲いている地域は北九州から北関東にかけての平野部です。面積的に日本の国土の半分以下です。入学式に桜が必然という考えは、東京中心でしか物を見ていない証拠です。

昨年頃から大学の秋入学が話題になりました。秋入学によって国際化が図れるという理由を挙げていますが、それは外国からの入学者を受け入れやすい、ただそれだけです。現在の制度の中に秋入学を認めればそれで済む話です。

春合格・秋入学では、秋までの半年間ギャップチームが生まれます。このギャップチームに「留学」をさせようという意見がありました。しかし、大学受験を何とか乗り切った生徒に、いきなり留学というのは、

本人の心理的ハードル、家計の経済的にハードルが高すぎます。高校卒業後いきなり留学しても、得られるものは初歩的会話力と異文化体験です。留学期間も、現実的には四月下旬から七月下旬の四か月というのが限界で、どれほどの意義があるか疑問です。

「アルバイトなどの就業体験」を義務付けるという案もありました。社会性は身に付くかもしれませんが、勉強に対して意識の弱い学生は、アルバイトで収入を得ること、大学での修学よりもお金を稼ぐ方へシフトしてしまうでしょう。そして、何らかの学習プログラムを与えない限り、大多数は春から秋にかけての期間で学力低下を起こすでしょう。

高等学校の立場からすると、さらに問題があります。高校卒業から大学入学までの半年以上、生徒たちの身分は不安定です。社会的な身分は「無職少年」になってしまいます。学割のような優遇措置も受けられないかもしれません。そうになると、生徒たちが頼るのは高等学校しかありません。結果的にこれらの生徒の指導をしなくてはならないことになり、高校の先生方の負担増は目に見えています。

私は、一概に秋入学を否定しているわけではありません。東京大学のような極めて優秀で意識の高い層を集めている大学であれば、秋までの半年間、学生に対して、ギャップチームを有効的に利用させることは、意義があると思います。ただ、大前提として春に入学させ、学生としての身分を与え、大学は指導教官をつける、春入学・秋始業でないといけません。

東京大学は秋入学構想を華々しく打ち上げましたが、この六月中旬、秋入学は早急には実施しないこととし、四チーム制の導入を発表しました。私としては、ぜひ東京大学が先陣をきって春入学・秋始業をや

ってもらいたいと思っっています。

入試制度で教育は変わらない

昭和の時代の終わりのころの大学は、出席も取らず試験さえ受ければ、あるいは授業さえ出していれば単位がもらえる授業が結構ありました。今は、そういうことはまずなく、しっかりと出席を取り、学生に対する要求水準も高くなって、大学の授業の質は向上しています。それは、そういう授業をしていないとまともな学生が育たない、外部からの評価が悪くなるという現実に対して、大学が内部努力をしてきたからです。

最近、大学入試制度を改めようという動きがあります。五年後を目途にセンター試験を廃止して、複数回受験可能な到達度試験的なものを想定しているようです。この話は六月五日に文科省が発表したのですが、話の出所は中央教育審議会の高大接続特別部会です。高等学校における教育の質の低下、高校生の学習量の不足などに対応するため、大学入試制度を変えようというものです。しかし、高校二年生から受験可能な到達度試験となると、高校現場における混乱は目に見えています。

高校教育の質を上げるために大学入試制度を変えようという視点が、そもそもおかしいのです。ならば高校内部での改革が必要です。その動きが鈍いのは高校側に責任があります。この中教審の部会の審議内容を見ると、政府の教育再生実行会議の動向をかなり意識しています。この会議は、現内閣の強い意向で設置されたものです。今の日本の教育には様々な問題がありますが、「再生」しなければならぬほど疲弊、あるいは死に体でないと思いません。教育について、変える、改革するというところのものに意義を求め、「改革病」に陥っている人々が跋扈しているような気がしてなりません。

高校より

インターハイに向けて

北九州インターハイ出場にあたって

男子ハンドボール部 顧問 八田 政久

6月16日(日)に行われました全国高等学校総合体育大会山梨県予選において県立日川高等学校を36対18で下し、21年連続21回目のインターハイ出場を勝ち取ることができました。ここまで続けさせて頂いたことに大変感謝しております。

本年度のチームは2月に行われました全国選抜関東予選において3年ぶりで全国選抜大会の出場権を獲得することが出来ました。結果は2回戦敗退でしたが、生徒の間では全国大会に行くことが出来た慢心が広がり、6月に行われた関東大会では上位入賞することが出来ませんでした。それから、日々の練習に大勢のOBが駆けつけてくれ、現役選手に叱咤激励を与えてくれました。当日は直前の試合でOBの坂本先生率いる女子部が男子と同じ相手である日川高校に惜敗し



「女子の悔しさを晴らそう!」と生徒たちが頑張ってくれました。生徒たちには本当に感謝しております。今まで支えてくださったOBや保護者の皆様をはじめ大勢の方々へ感謝の気持ち

インターハイは高校生の夢舞台

陸上競技部 顧問 三枝 幸雄

インターハイをインター杯と書く人がいますが間違いです。ハイスクールのハイです。運動部に所属している高校生なら誰もが憧れる舞台だと思います。陸上競技部員にとつては特に憧れが強い大会です。なぜならば南関東地区予選を突破しなくてはインターハイに出場できないからです。毎年、生徒たちはインターハイ目指して日々精進しています。1cmや1000分の2秒で天国と地獄を味わいます。今年の駿台甲府高校は5000m競歩で5位入賞を果たしましたが、残念ながらインターハイ出場はなりません。八種競技も県高校新記録を樹立し入賞しながらも、道は閉ざされました。男子1600mリレーは全国上位の記録を出し、また多くの生徒がベスト記録を出しながら、関東の厚い壁に跳ね返されました。その中でも初日、八種競技に挑戦しながら走幅跳で入賞記録6m95の逆転大ジャンプをやつてのけた2年の山下黎君の強靱な精神力は、応援していた駿台チームの皆に大変な勇気と元気を与えてくれました。3日目200mの3年寺本有那さんの激走は YouTube にも取り上げられているほどで、改めて関東のレベルの高さを感じるほどでした。その中に同化している寺本さんのサクスブルーの勇姿も賞賛に値します。陸上競技は今年大分、そして来年はいよいよ山梨で夢舞台が開催されます。駿台の全ての力を結集して、山梨のまた関東の代表として正々堂々と競技させたいと思います。今後とも指導ご声援をよろしく願っています。

インターハイ出場に向けて

空手道部 顧問 笹原 正雄

直線。空手道が多くの人々の心を引きつけて已まない最高の魅力はこの「直線」にあるのではないのでしょうか。まるで虚空を標的にするかのよう鋭く突き出される空

拳―試合会場という間の一角を確実に劈く、裂帛の気合い諸共に繰り出される飛燕のような蹴り―出場選手の一挙手一投足に伴って純白の道衣が辺りの空気を震わせる「ピンッ!」という鋭敏な音。静から動へ、動からまた静へと反復されるこれら一連の挙動を背後から支えているものは正に「直線」にあると思われまます。

去る6月15日(土)に行われたインターハイ県予選大会、男子個人形の部に於いて三年生の深澤拓椰君が見事に準優勝を飾り、今夏、長崎県は佐世保市で行われるインターハイ本大会への出場を決めました。学校の武道場で、あるいは町の各道場等で鍛え上げられてきた多くのライバル達を次々と打ち敗つての快挙でした。

活躍の舞台を城のある町から千百キロ離れた、巨大な港の見える町へと移し、小瀬スポーツ公園武道場で見せた「直線」の魅力は山梨県代表選手として伝えてきます。距離的には遠くても果てしなく広がるたつた一つの天空がいつでも神業を見守つてくれるに違いありません。

「元氣」を引つ提げて行つて参ります。

野球部より

「思ったように力が発揮できない!」これが、現チームが抱えてきた課題です。ある程度の手応えをもって臨んだ昨秋、力を発揮できぬまま惨敗しました。そして自信を掴んで臨んだ今春、詰めの甘さから惜敗しました。自分たちに足りないものは何かを考え抜いた結果、出た答えはシンプルなものでした。「当たり前」のことを、当たり前「にこなす」こと。その行動がとれないならば、プレッシャーのかかる本番で力を発揮するのは難しいと確認しました。それから、もう一度私生活・学校生活の姿勢と考え方を直直し、改善できるよう取り組んできて臨む今夏、選手が結果を出してくれること

を誰よりも望む自分がいいます。下級生の頃から出場している選手が多く、入学後から私が指導してきました。しかし、指導が行き届かないため考えの甘さや行動の幼さが目立ち、多くの先生方や関係者にご迷惑をおかけしてきました。迷惑をかけてきたお詫びと、それでも見捨てずに指導し見守つてきてくれたすべての人に感謝の気持ちをもって戦い抜きます。すべてはこの大会の勝利のためにやってきました。この夏は全力で無邪気に白球を追いかけます。温かく見守りたいと思います。ぜひ、大きなご声援を宜しくお願い致します。

野球部監督 池田健太郎

関東大会へ

6月22日(土) 23日(日)に行われた関東予選兼水泳競技会で、本校水泳部女子が16年ぶりに優勝しました。関東大会出場が決まった選手は以下の通りです。岩間千花子(1A)・200m自由形、小西麻友(1A)・50m・100m自由形、小松あい(1H)・100m・200m自由形、植松里菜(2C)・400m自由形、日原果歩(3A)・100m・200mバタフライ、小松えり(3B)・200m・400m個人メドレー、小松あい(1H)・小西麻友(1A)・日原果歩(3A)・岩間千花子(1A)・400mメドレーリレー、小松えり(3B)・岩本紗希(2A)・小西麻友(1A)・岩間千花子(1A)・400mリレー。

男子の関東大会出場選手は以下の通り
海野未来(1H)・200m背泳ぎ・200m個人メドレー、保暁人(2C)・50m自由形100m背泳ぎ、多田隆亨(1A)・保暁人(2C)・田川浩太郎(3A)・400mリレー、多田隆亨(1A)・海野未来(1H)・米山太志(1A)・田川浩太郎(3A)・800mリレー

中学校より

文化祭—日本の学校ならではの行事

本年は国民文化祭(国文祭)が山梨県で行われています。県内各地で年間を通していろいろな催しが企画されています。我が校でも先日毎年恒例の駿中祭が盛大に行われました。準備の段階から一生懸命取り組んでいる生徒たちの姿が見られました。

文化祭は日頃の学習の成果を発表する場という位置づけが一般的です。幼稚園の発表会に始まり、各学校には大学に至るまで文化祭(大学では学園祭というのでしょうか。)とおぼしきものがあります。文化祭、体育祭、入学式、卒業式などは日本では当たり前の学校行事ですが、ない国の方が多いかと思えます。四季のある国に住む我々の一年は季節ごといろいろな祭や行事がありますが、そういったものが学校生活の中に織り込まれているとも言えるでしょう。

以前交流のあったイギリスの学校の中高生が本校にきた時のことです。学校紹介ビデオを見せると、駿中祭のシーンに驚き、全員で一つのことに取り組んでいることに興味津々になっていました。また、日本全国には大勢のAET(ネイティブの英語指導助手)がいますが、彼らが日本の中学校でビククリすることの一つに必ず合唱を上げます。普通のクラスや学年で合唱することは欧米では考えられないことなのでしょう。いずれにしても、準備段階から当日までみんなで協力して取り組むことで生徒たちは一回りも二回りも成長します。机の上では学べないこういった学びは日本社会では大切なことなのです。

清掃の時間・道徳の授業

海外(主に欧米)の学校との比較で日本の

学校のことをもう少し考えてみようと思いたす。多くの国では学校は勉強をする場としての認識がはつきりしています。学校は文字通り勉強をするところなのです。日本でももちろんそのことに違いはないのですが、勉強の意味がより幅広いと言えよいのでしょうか。机の上での勉強だけでなく、人格形成、また、生活面におけるものまで含んでいるのです。代表的なものに掃除と道徳があります。

我々は学校で、皆で掃除をします。多分日本中どの学校でも同じです。我々は自分たちが勉強をする場を自分たちできれいにするのは当たり前だと思っています。それは家庭でも然りで、日本ではかなり高収入の世帯でも掃除を他人任せにはしません。自分が勉強をする、日々生活する場を自分の手できれいにする、そのことが勉強(生活)に対する心構えを作ることに通じるといえます。これは日本人的な美学でもあると思います。よく、修行のために師匠に弟子入りすると、最初の仕事はトイレ掃除とはよく聞くことです。先日もどこやら相撲部屋の力士の話で、相撲取りになれたのは、最初に弟子入りした部屋でトイレ掃除を一生懸命にやって、それが認められたからだ、と書いてある記事を読みました。この力士に限らず、日本人にはまず掃除から、というのはある一定以上の年代の日本人にとっては当たり前の感覚だと思います。道徳ですが、これも海外の学校にはないようです。物の善悪や人生における大切な事柄を学ぶのは家庭と宗教です。欧米の国では宗教の力が大きく、宗教が日本の道徳に当たるものを学ぶ場になつていきます。日本は神道、仏教の国ですが、日本の宗教の形は他の国の場合と比較するととても特異な形です。生れたら神社に参り、教会で結婚し、亡くなったからお寺のお坊さんに供養をしてもらう。外国人は理解できません。そんな背景もあるのか日本人は学校で道徳を学んでいるのです。

我々らしき

日本人は協調性があると言われる。それは子供の時から学校でこのようである意味全人的な教育制度のもとで教育を受けているからでしょう。それは我々のアイデンティティー(我々らしき)だと思います。

先日のコンフェデレーションズカップでサッカーの日本代表は全敗に終わりました。来年のワールドカップの本戦は是非とも頑張つてほしいものです。サッカーの海外チームにはホペイロというスタッフがいます。いわゆる用具係で選手のスパイクを磨いたり、管理したりするそうです。日本のリーグのチームにはもともとそういうスタッフはおらず、一流選手も自分で用具の管理はしていたそうです。流石に最近では海外に出る選手も増えて、チームによつてはそういうスタッフを抱えているところもあると聞きます。

このようなことにしても、やはりもともと一流の人も自分のことに関わることは一から全て自分でやる、というのが日本的なやり方なのでしょう。欧米ではいろいろなことについて最初から役割分担がされています。ホペイロという仕事があることもそうです。社会の中の役割分担が最初からなされているのがよいのか、そうでないのがよいのか、それはわかりませんが、少なくともそういう違いがあるということ、そして、日本的なものを良さを改めて認めて継続していくことは大切なことには違いないと思うのです。

2013年度 市総体結果報告

【ハンドボール男子】

優勝【県大会出場】(対城南中17-15)

【ハンドボール女子】

優勝【県大会出場】(対東中 23-5)

【男子テニス】11名が【県大会出場】・ダブルスベスト8(3ペア)：吾妻駿人・津金友人、和田友紀・石原誠大、奥田祐介・佐久間高揮、ベスト16(1ペア)：和田大志・松川大介・シングルス優勝：依田隼斗、ベスト8：嶋崎律己、前田理玖

【女子テニス】2名が【県大会出場】・シングルスベスト8：高根里実、ベスト12：白倉由吏安

【陸上】入賞数 男子9種目、女子10種目

男子：共通総合9位、2年総合9位、1年総合6位、女子：共通総合9位、2年総合8位、1年総合4位

【県大会出場】男子：2種目5名、女子4種目4名(4位までの種目)

男子：2年110mH 1位 今井貴人、1年4×100mR 2位 笠井・守屋・仲田・岩澤

女子：共通 砲丸投げ 1位 太田まりあ、共通走り幅跳び 4位 塩谷 梓、1年100m 2位 山田幸乃、1年走幅跳び 2位 望月風沙

【サッカー】グループリーグ3位(対東中0-1、対北東中1-1)

【男子バスケット】第4位【県大会出場】 対北中53-37、対南中 49-36、準決 対西中31-53、3決 対城南中 49-53

【女子バスケット】第6位 対北西中67-28、対西中35-45、敗者復活戦 対城南中31-29、代表決定戦 対富竹38-55

【男子バレーボール】【県大会出場】*市内1チームのため

【女子バレーボール】予選リーグ敗退(対北中0-2、対城南中0-2)

【男子卓球】予選リーグ2位(4勝1敗)、決勝トナメント3位入賞【県大会出場】

【女子卓球】予選リーグ2位(2勝2敗)、決勝トナメント3位入賞【県大会出場】

【野球】2回戦敗退(対北中0-7)

仲間と共に(つながり)

野球クラブ 望月 一志

今年度で5年目を迎える、小学校の放課後野球クラブですが、子どもたちは純粋に野球が大好きで、毎週2回の練習を楽しみに活動しています。もちろん、楽しくだけではなく、基本的なあいさつや異学年との交流、集団活動を通して、仲間作りなどを学びながら練習を行っています。子どもたちが、大好きな「野球」を通じて、真剣に上手くなるうと声をかけ合い、5・6年生が、新しく入った4年生にランニングのかけ声から準備体操、「話しを聞くとときは帽子を取って聞くんだよ」と教えている姿を毎年よく目にしますが、素晴らしいことだなと思います。その姿を見ている4年生が、6年生になったときに、また伝えられていき、さらによい集団になっていくのだと感じています。

今年度は、ピッチングマシンや防護ネットを新たに購入していただき、設備面においても充実してきました。近年、プロ野球のテレビ中継が減っている中で、子どもたちの野球への情熱と『仲間と共に楽しみながら活動すること』を大切に練習していきたいと思えます。さらに、『つながり』として、野球を小学校から中学校、中学校から高校と続けていき、いつの日か、駿台甲府を甲子園に導いてくれるといいなと期待しています。そのため、野球の楽しさや面白さを感じながら、練習をしてほしいと思います。

クラブを担う集団の中で

サッカークラブ 長澤 宏治
新しくサッカークラブを担当すること

になりました長澤です。クラブを担当することは初めてで、まだ不慣れな部分もありますが、大好きなヴァンフォーレ観戦で培った知識をフル活用しながらクラブ指導にあたっている日々です。

クラブを担当してまず感じたことがあります。それは、教室とクラブでは表情が違ふ子どもも少なくないということです。サッカーのようなチーム競技にはポジションがあります。クラブ自体が自分のポジションになる子どももいるのではないのでしょうか。クラブだからこそ生き生きと過ごせる。それもクラブのいいところなのかもしれません。

この様に、クラブは子どもたちの居場所として存在する一方で、やはり技術を上達させていくという目標があります。しっかりとした技術を身に付けてこそ、チームプレーが成り立ち、サッカーの楽しみが増えるのも事実です。

サッカークラブでは、初めはチームを固定せず、毎回異なるメンバーで練習を行っていました。現在はチーム分けをして、練習もチームごとに行っています。まだ、まとまりが出始めている段階なので、チームプレーと呼ぶには程遠い印象ですが、これから多くの時間を共に練習していく中で、それぞれのチームの色を出して欲しいと思います。

教室とは、また違った集団の中で、子どもたちの成長を支えていけるように暑さに負けずがんばりたいと思います。

スポーツの楽しさ

女子バレーボールクラブ 小澤 那月
クラブの時間になって体育館へ行くと、決まった練習メニューを始めている子ども

たち。何も分らない四年生に優しく教えてくれる五・六年生。学年の壁もなく、クラブ長と副クラブ長を中心によくまとまったチームです。

新しいチームがスタートして四か月。たど何気なくボールを打っただけではなく、一つ一つの練習に意味があり、どうすればもっと良くなるのか、何が良くなかったのか子どもたちに考えさせるようにしています。クラブの目的は楽しくスポーツ活動を行うことですが、そこに技術の向上が加わればよりスポーツの楽しさを味わえるのではないかと思います。

まだまだ基礎の練習が必要で、バレーボールらしいラリーのある試合をすることは出来ませんが、これからも少しずつ練習を積み重ね、三学期にはラリーもあるような試合が出来れば良いと思っています。

熱意とやる気いっぱいの子どもたちが、クラブでよりよい経験が出来るよう、いろいろな活動を取り入れながらこれからもサポートしていきます。



小さな音楽家

吹奏楽クラブ 花輪 悠貴
現在の吹奏楽クラブは、新たに二十一人が加わり、全人数が五十人となり、活気が

あります。

現在、主に2つの曲を練習しています。昨年までの「音楽集会」「六年生を送る会」の二つの行事に加え、本年度は「国民文化祭」の採択事業にも参加することになり、演奏する機会が増え、練習にますます熱が入ってきています。

顔を真っ赤にして吹く子どもたち、大きな楽器を重そうに抱える子どもたち、体でリズムをとって力いっぱい太鼓を叩く子どもたち、まだ音も音程も不安定でユラユラした演奏にもかかわらず、子どもたちの奏でる音楽にはエネルギーがあります。日々、練習していくにつれ上達していく姿に、子どもたちの可能性を感じます。

「音は心、心は音」

音づくりは心をつくるところから始まります。子どもたちには「聴いてくださる方に感動してもらえぬ音楽」をテーマに掲げて、心を込めて演奏してほしいです。技術力だけではなく、心を育むことが出来たのなら、演奏的にも人間的にも、大きな実を結ぶことでしょう。小さな音楽家たちが、どんな音楽を作っていくのか楽しみです。



子どもたちは、これから演奏会に向けて頑張ります。応援、宜しくお願いします。

— 学園祭特集 —

駿高祭

第33回駿高祭

いつ駿台?いまずら!

駿高祭担当 浅川直哉

駿高生にとって一番大切なイベントである駿高祭が6月13・14日に行われました。どの生徒もこの日に向けて少しずつ努力をしてきたでしょう。しかし、私が一言でこの祭りを表現するならば、「不安」という言葉だけでいい。本当に不安でした。駿高祭の運営は初めてであり、駿中から持ち上がったばかりの私にとってこの仕事は大役であることは間違いありませんでした。いつまでも嫌だ嫌だと駄々をこねても駄目です。覚悟を決めて、行動を起こさなければ前には進みません。今年のテーマも「いつ駿台?いまずら!」に決まり、私も「今、動き出さなければいけない」状況が次第に出来上がっていました。そして「不安」は動き回っている間に、どこかに置き去りにしてきてしまいました。

4月から始まった実行委員会も直前にならないと見えてこない事もあり、前日になつて何とか間に合ったという状態でした。しかし、限られた時間の中で実行委員長の馬場玲門君を中心に、良く動き・さまざまなアイデアを出し合って頑張ってくれました。

表彰結果は以下の通り

総合優秀賞 3E 「BUZZER BEAT」

【1学年】

1位 1C 「わが家にテレビがやってきた」

2位 1A 「僕らが描く八田クオリティ♡」

3位 1B 「B同士・慶踊し〜Be動詞形容詞〜」

【2学年】

1位 2F 「Let's do that there is it only in 2F.」

2位 2E 「Можно еше до с

татья Гнерега.」

татья Гнерега.」

3位 2H 「We perform Kung-fu of Kung-fu」

【3学年】

1位 3E 「BUZZER BEAT」

2位 3D 「Lupin the 3rd」

3位 3F 「CHEER UP!」

今年は台風の進み具合で大雨か?と心配された天候も1日目だけ降られただけで済み、2日目は雨が降らず、むしろ暑すぎる快晴でした。生徒たちが捻り出して作り上げた企画を訪問された方々にも楽しんでもらうことができました。最後に、全生徒の協力と努力、そしてご来場いただいた皆様のご理解とご協力の結晶として、東日本大震災の被災者の皆様へ義援金として送ることができたことを、この場をお借りしてご報告させていただきます。

写真で見ると駿高祭



恒例のくす玉割り



2 F



1 C



中学生と一緒に合唱部



クラス企画テント村



駿高祭2日目スタート



3 E



男装女装コンテスト審査



茶道部



写真部

学園祭特集

駿美祭

6月14日(金)・15日(土)の2日間、美

術デザイン科では学園祭『駿美祭』を行いました。会期中は多くの保護者お皆様が来場くださり、また、PTA役員を中心にお手伝いいただきありがとうございました。PTAで行った遊休品バザーにつきましては、多くの貴重な品物を出していただき、重ねて御礼申し上げます。生徒たちは有意義な2日間を過ごしたと思いますが、いかがでしたでしょうか。

14日は、1階ホールに作業用の机などを利用しステージを組んで、各クラスの催し物や、生徒会主催のゲームやクイズを行いました。全員でのフルツバスケット、一筆描きなど他ではなかなかできないようなものから、玉入れ、美デ科の秘密クイズ、ビンゴ、空き缶積みなどのほか、1年生は短い準備期間で大変だったと思いますが、『眠り姫』も行いました。

15日は、一般公開しました。4階アトリエに作品を展示し、来場者の投票により賞を決める自由作品コンクール、各クラスの教室を使って模擬店、漫研の展示・販売、美術部缶バッチ制作、階段は各クラスで分擔して装飾もしました。PTA役員を中心としたバザー、食品の販売、全館放送を使ってビンゴなども行いました。コンクールには193名946票の投票があり、3年土橋礼菜が最高賞に選ばれました。(他の受賞者は以下の通り。詳細は7月中旬掲載予定です。ホームページをご覧ください。)今後もより美デ科らしい学園祭を目指していきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

2013 駿美祭コンクール受賞者
 最優秀賞 PTA奨励賞 土橋 礼菜 3年
 優秀賞 PTA奨励賞 中島 瑛介 3年
 優秀賞 PTA奨励賞 高橋 晴美 3年

優秀賞
 奨励賞
 奨励賞
 奨励賞
 奨励賞
 奨励賞

新海 帆南 2年
 前嶋 菜々 3年
 遅澤 愛永 2年
 保坂 恋 2年
 武田 彩花 3年
 金子沙也香 3年
 岩波 陸 1年
 保坂 皐月 3年

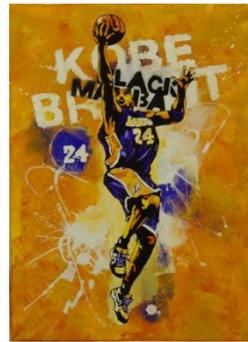
写真で見る駿美祭



3年模擬店



バルーンアートで客寄せを



駿美祭 優秀賞
 岩波 陸 1年



駿美祭 優秀賞
 新海 帆南 2年



駿美祭 優秀賞
 中島 瑛介 3年



階段の装飾①



階段の装飾②



司会の2人



玉入れ

駿美祭 最優秀賞
 土橋 礼菜 3年

駿美祭 優秀賞
 高橋 晴美 3年

全国総文祭に出品します

第37回全国高等学校総合文化祭(長崎大会)の美術・工芸部門 県代表として作品を出品し大会に参加します。この作品は、昨年の山梨県高等学校芸術文化祭美術工芸部門で優秀賞を受賞し、県代表7名の中に選ばれました。7月31日〜8月4日、長崎県立美術館に展示されます。



芝田 嶺 (3年) 『暑』 S50 油彩

中学校より



駿中祭「ひまわり」

3学年主任 小高淳

六月二十三日(日)に行われた第二十回の駿中祭。今年のテーマは、『革命を起こせ！駿中生！』として物語は伝説へく』でした。二十回という節目で、これまで以上に盛り上がった駿中祭になったと思います。

合唱部の発表では、高校の合唱部と一緒に、中学校だけでは出せない、綺麗なハーモニーを聴かせてくれました。また、二曲目の「サザエさん」では、ただ歌うのではなく、高校生がサザエさんに変装し、会場全体を盛り上げるパフォーマンスも披露してくれました。

駿中祭のメインでもあるクラスパフォーマンスでも、準備期間が一週間という短時間で、各クラス工夫を凝らした発表をしてくれたと思います。一年生は、例年の一年生以上の質の高さを見せてくれ、二、三年生は、昨年より、ダンスでは集団の統率力が上がり、劇でもストーリーがより充実したものになっていったと思います。

最後の盛り上がりは授賞式。最優秀賞はこれまで一クラスだけでしたが、今年は三年C組と二年D組のダブル受賞。駿中祭でクラスパフォーマンスが取り入れられて七年になります。これは初めてのことでした。

今回の駿中祭は、『革命を起こせ！』というタイトル通り、いろいろなことがこれまでと違ったものになりました。まさに、生徒みんなで『革命』を起こしたのではないのでしょうか。生徒のみなさん、お疲れさまでした。

県中学総体に向けて

男子テニス部 永山一宏

テニス部の重要な公式戦は、春の山梨県選手権大会・夏の山梨県総体そして秋の山梨県新人戦の三つで、いずれも団体戦を行って覇を競います。本校男子テニス部は昨年この三つを制し、県三冠を成し遂げました。今年も既に春の選手権をとり、二年連続の三冠に向けて夏の総体制覇を目指しています。そのためにも、その前に行われる関東大会で好成績を残して、総体三連覇に勢いをつけていきたいところです。県総体では、まず25日に行われる団体戦を制し、その余勢を駆って計11人が出場する26日の個人戦でも、出場選手が甲府市総体を勝ち抜いた代表としての誇りを持って試合に臨み、満足行く成績を残してほしいと思います。

中学校の玄関に現在飾られている優勝旗のうち、二本は昨年の県総体と県新人戦で激戦の末勝ち取ったものです。すでに、選手権の優勝カップは守り抜きました。残る二本の優勝旗もぜひ死守したいところです。とりあえずは県総体の優勝旗です。頑張りますので応援をよろしくお願いします。

女子テニス部 塩津奈央

女子テニス部は7月25日に団体戦、26日に個人戦が行われます。団体戦では、1年生から3年生までの補欠を含めた計10名が出場します。女子テニス部では昨年、粘りに粘ったプレーを見せ団体戦県3位の記録を残すことが出来ました。今年もその記録を維持出来るよう、日々の練習では、学年分け隔てなくラリーをしたり部内戦を行ったりしています。3年生は最後のな

悔いの残らない試合を、2年生は先輩たちの思いをしつかり受け継ぐことが出来る試合を、1年生は先輩たちの背中を見て何かを学べる試合をしてもらえたらと思います。また、個人戦では市総体でベスト8の3年高根、ベスト12の2年白倉の計2名がシングルスに出場します。県の個人戦は、各支部から勝ち上がった強豪が揃っている中で、少しのミスが命となりとなります。なるべくミスをせず、自分の力を思う存分発揮出来るプレーをしてくれることを期待しています。ダブルス不参加という寂しい結果ではありますが、部員全員の思いを力にしてベストな状態で試合に臨みたいと思います。応援のほど、宜しくお願いします。

ハンドボール部男女 益田 耕治

男子部においては、昨年度の関東大会出場に続けと、目標を高く掲げ、始動しましたが、なかなか結果に結びつかず、苦しみながらも昨年度の県新人においてベスト4に入りはしましたが、5月の選手権大会にて僅差の試合を落とし、4年ぶりにシード権を逃す結果となりました。いまいち危機感のなかったチームでしたが、これを機に部員一同、県総体での奮起を誓い、放課後練習以外にも朝の時間等を有効に使い、自主的な脚力の強化に励み、結果6月に行われた市総体においては、やや復調の兆しをみせ、選手権において苦杯をなめた相手に対し、勝利をおさめ、心身ともに最後の大会に向けて調整に余念のない状況です。一方、女子部におきましては、昨年度からのメンバーが多く残り、その経験から新人戦、県選手権とベスト4に入り、県内3強と呼ばれている東山梨支部の中学校と良い勝負ができるようになりましたが、「関東大会出

場」の目標を達成するためには、更なる努力・積み重ねが必要であり、この数日間が勝負所といった状況です。なお、今年度は8月8日～10日の関東中学大会が小瀬体育館で開催されるため、そのリハールを兼ねて7月25日から27日の3日間、県総体が同じ場所で開催されます。日頃から練習場所として利用している自分達のホームとも言える会場で悔いなく、部員達が掲げた目標を達成するために躍動してくれる事を期待しつつ、大会までの残された練習期間を無駄にすることなく、「練習は試合のよう」に試合は練習のよう」を合言葉に日々努力していきたく思います。繰り返しますが、数年ぶりの県総体甲府開催となります。お近くにお寄りの際、お時間がありましたら、皆様の声援をご協力いただき、「ホーム」の雰囲気を作るご助力をいただけたらと思います。

試合時間のご案内

- 7月25日(木) 男女予選リーグ
- 11時50分～松里中学校(男子)
- 13時00分～葦崎中学校(女子)
- 15時20分～山梨南中学校(男子)
- 7月26日(金) 男女予選リーグ
- 10時40分～山梨北中学校(女子)
- 11時50分～笛川中学校(男子)
- 7月27日(土) 男女準決勝・決勝
- 9時30分～準決勝(女子)
- 10時50分～準決勝(男子)

陸上部 野倉英明

市総体の結果、男子は今井貴人(2年)が110mハードル、笠井蓮・守屋秀亮・仲田祐大・芦澤英海(1年)が100m×4人のリレー、女子は太田まりあ(3年)が砲丸投げ、山田幸乃(1年)が100m、塩谷梓(3

年)・望月風沙(1年)が走り幅跳びにおいて、7月29日(月)・30日(火)に小瀬で行われる県総体の出場権を獲得しました。練習通りに結果を出せたならば最善であり、普段以下の結果であった部員も多かったのですが、それが試合というものだという教訓を得て各自が成長したように見えます。

これを書いて今現在、本校は駿中祭や期末試験の準備期間となっており、生徒たちは多忙を極めておりますが、早朝・放課後の小さな空き時間などを使って練習に励んでいます。特に3年生にとって県総体は、これ以降に大会が無いわけではありませんが、高校へ進学するために学業へと重点を移し始める者も多い山梨県内では集大成ともいえる大会です。この大きな舞台で結果を出すために、日々精一杯の努力をして試合本番に臨みます。

男子卓球部 牧和弘

今年度から男子卓球部の顧問をさせていただくことになりました牧と申します。この度の市総体での団体戦は、予選リーグ4勝1敗、決勝トーナメント1回戦敗退という結果となりました。しかしながら、出場11チーム中、3位となり、県総体へ出場させていただけることとなりました。男女共に県総体に出場できることを大変嬉しく思っております。

試合に際して代表となった3年生中心の選手の努力はもちろんですが、審判や応援など1・2年生の努力が結実したことを大変誇りに思っております。また、前年度まで男子卓球部を指導していらっしやった酒井竜次先生をはじめ、選手をサポートしてくださいました保護者の方々に大変感謝しております。

団体戦は4シングル1ダブルスで行われるため、選手一人ひとりの実力向上が不可欠です。選手は市総体を通じて新たな課題に気づいたと思います。その課題を克服して県総体に臨み、試合の1球1球を悔いのないものにしてほしいと思います。県総体は7月25日に行われます。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

女子卓球部 坂本哲雄

市総体ではリーグ(5校)の予選リーグがありました。上位2位以内に入らないと県総体出場権は得られません。かなり緊迫した雰囲気の中での試合でした。結果は2勝2敗で3校が三つ巴の状態となり、どの学校が2位になるのか期待と不安で張りつめていました。セット数で判断されるということで、試算してみたところ、本校は3位(?)でした。しかし、顧問の(嬉しい)勘違い(?)もあって、結果は見事2位と判断していただき、部員一同感無量でした。1・2年生の応援が天に届いたのでしょうか。本当に嬉しい結果でした。この感激を次の県総体へ引き継いでいきたいというのが部としての意気込みになります。県では、どの学校も予選を勝ち抜いてきた学校ばかりですから、相手ごむいと思えます。しかし、本校も選ばれているわけですから、7月の期末考査が終了次第、県に向けて日々練習を積んで、今以上の力を付けて試合に臨んでいきたいと思っています。まず、具体的には1つ1つの技術、たとえば、フォア、サーブ、レシーブ、ショート、ドライブ、ツッツキ、ショート、フットワークを正確に行えることを目指します。次は3球目、ラリーコントロールなどの戦術

面の強化を図ります。最後は実践練習を試合形式で積んで、試合の勘を身に付けていきます。卓球の場合は技術面以上に精神面の強さが試合に大きく影響するスポーツです。したがって、応援の影響も大きいわけです。選手と顧問と応援が一体となって、団体戦が支えられていくのです。今回は久々に男女そろっての県出場という偉業を成し遂げることができたので、それに恥じない結果を出したいと思っています。また、昨年度まで男女卓球部の指導をしていたいた酒井竜次先生の御恩も忘れることはできません。ありがとうございました。応援よろしくお願ひします。

男子バレーボール部 柿澤喜英

現在、市内の男子バレーボール部は本校しか存続していない。そのため、昨年度の新人大会から予選なしで県大会に甲府支部第一代表として出場している。予選を経ずして、レベルの高い他支部代表といきなり試合をするのはかなりのハンデだが、あれこれ言ってもしょうがない。できないことはできないが、できるはずのことをきちんとやり遂げよう、を意識して、日々練習に取り組んでいる。

5月の県選手権では、1回戦で田富中と当たったが、フルセット、それも25-18、13-25、25-20と競りながらであったが、何とか勝つことができ、県ベスト2に入った。私が中学校に異動してきてからは県大会では初勝利であった。練習は裏切らない」ということが部員にも実感でき、自信にもなったようだ。

次は1名しかない3年生最後の大会である、県総体。1回戦で再度、田富中と当たることになった。負傷者が多いのは困った

ことだが、もう一度県ベスト2を目指して頑張らせた。

男子バスケットボール部 山口倫明

新チームになってからというものの、とにかく公式戦で勝利をする。このことから遠ざかっていた選手たちに、勝つことの喜びを味あわせてあげたい。その思いから土日にできるだけ練習を入れ、文武共存を図りながら、懸命に練習した成果が新人大会で出たときに子どもたちの成長を見ることができました。

しかし、その後、謙虚な姿勢が薄れはじめ、練習に対する姿勢が悪くなっていく様子が見て取れました。四月の選手権では不安が的中し、四位になりました。子どもたちは、悔しさから懸命に努力し続けてきました。

しかし、今回も油断をしたのかどうかはわかりませんが、初戦から立ち上がりが悪く、終始リードを許す展開に、初戦での敗退も覚悟しました。前半の残り一分から逆転したときには、この流れなら勝ちきれると確信し、子どもたちを信じ抜きました。選手権での苦い思いを払拭するべく二日目の準決勝・三位決定戦を戦いましたが、惜しくも甲府市四位となり、県大会に出場し

あくまでも目標は県大会での一勝です。「このメンバーでバスケットボールをすることができると喜びをかみしめながら、全力で取り組み、最善を尽くす」ことを合言葉に、練習に励んでいきたいと思ひます。応援をお願ひします。

小学校より

サイエンスショーを通して

PTA文化担当 依田 秀樹

今年度最初のPTA文化講演会は、山梨県立科学館の職員の方々をお招きし、サイエンスショーを六月十八日に開催しました。シヨールは低学年・高学年の二部構成とし、低学年では風船等を使った楽しい実験、高学年ではそれだけではなく、大気圧をテーマにした少し考える実験と、それぞれの学年に応じた内容で行われました。どの実験も子どもにとっては楽しい実験ばかりで、興奮して立ち上がって盛り上がる場面もあれば、どうしてそうなるのだろうと真剣なまなざしで見ている場面あり、様々な子どもの表情をみる事ができました。「普段の授業・生活では体験できない不思議や感動を通して、想像性豊かな情操を育てる」をねらいとしたこのシヨールは、科学に触れる機会がまだ少ない子どもにとって、とても良い経験になったと思います。

低学年・高学年共通して人気だった実験

空気砲の煙の輪に歓声



「空気砲であそぼう」という実験でした。私自身の経験でも、サイエンスシヨールといえはこの実験のイメージがあります。最初は小さな箱から始まり、最後にはとても大きい箱で締めくくりました

です。放った後も残っている空気砲の煙をいつまでも眺めていたい、そんな気持ちになった瞬間でした。

私はシヨールが行われる前、どんな些細な気づきでも、

何か一つ感

じて帰って

くれれば良

いと思っ

ていました。

そして、感

じたことを

これからの

生活・授業

に生かすこ

とができる、

そういう子

どもが一人

でも多く現

れてくれれ

ば、この文化講演会は大成功です。いよいよシヨールが始まると、「すーいー」「おーいー！」「どうしてー？」など、子どもの素晴らしい声が体育館中を飛び交い、一つどころか、二つも三つも不思議や感動を得ることができた一日になりました。

このような有意義な文化講演会となったのも、PTA文化部の方々のご協力のおかげです。ありがとうございます。

文化講演会は、子どもはもちろん、大人も楽しめるような企画です。次回も多くの保護者の方に足を運んでいただけるよう計画しておりますので、楽しみにしてください。



宙に浮いて回る風船の輪

幼稚園・保育園との連携

五学年主任 奥村 貴子

幼稚園・保育園と小学校の連携を略した言葉、幼小連携という言葉が最近よく使われるようになってきました。本校でも、幼小連携には力を入れており、幼稚園・保育園と小学校が様々な形で交流することが活発に行われております。「小学校ってどんなところだろう？」と、就学前の園児ならば期待半分、不安に思っていることもあるはず。本校に訪れて授業を見学し、実際に小学生と一緒に触れ合う機会を設け、入学後スムーズに小学校生活に入っていけるように体験・見学会を実施しております。

今年度の第一回目は、大里幼稚園の年長の皆さんが本校に訪れてくれました。5年生がマンツーマンでエスコートをして、小学校案内と一緒に音楽の授業体験を行いました。幼稚園児だけではなく、5年生にとっても大変よい機会となり、小さい子に対する接し方や、やさしさを学ぶことができました。

幼小連携では、子ども達だけではなく、教員たちの交流も盛んに行われております。就学前保育・教育を単なる小学校の準備教育と捉えるのではなく、小学校以降の教育の土台と考え、生活の接続・学びの接続をよりスムーズに、それぞれの立場から見通しを持った連携が益々行われていけるよう、今後も積極的に取り組んでいきたいと考えております。



六学年校外学習「日産自動車工場見学」

六学年主任 田中 愛子

五月二十八日、六年生になって初めての校外学習が行われました。五年生で学習した「工業」の社会科見学がメインで、日産自動車追浜工場へ早朝六時半集合、一人の遅刻者も無く、全員参加、子どもたちの意気込みを感じました。九月に控えた修学旅行を見据えて、集団行動(班別行動)を仕上げる目的も意識しながら、充実した一日となりました。

工場内では、何台ものクルマが約5分(分)の速度で進んでいました。サファイアブラックのジュークのボディです。グレーのズボンに赤いシャツ、白い帽子という追浜工場のユニフォームに身を包んだ二人の作業員が、ラインに用意されているエンジンをリフトで持ち上げ、ジュークのエンジンルームに下から入れ、ボルトを締める。一丁あがり。次にやってきたのは、アクアブルーのリーフです。ラインに用意されているのはエンジンではなく、インバーターを上に乗せたモーターでした。作業員は、ジュークでもリーフでも、素人目にはまったく同じ作業をしているように見えました。一つのラインで複数の車種を生産することを、「混流生産」というそうです。作業員の教育や安全対策など、日本経済を支える自動車産業の実際を知ることができました。工場に働いている人の様子や、工場独特の「音」や「におい」を肌で感じ、子どもたちは、時間が足りないくらいたくさん質問を、競争のようにしていました。いつも知的好奇心が旺盛で、行動力もある七期生の元気な姿が印象に残りました。

連合音楽会に参加して

四学年主任 山下 潤

小雨降る中、第六十五回の甲府市連合音楽会が六月十二日に開催されました。甲府市の南1ブロックに所属し、本校、中道北小・中道南小・山城小・大里小の計5校の4年生が山城小学校に集まり、お互いの演奏を聴き合いました。この甲府市連合音楽会は、昭和二十二年から続くもので、戦後の焼け野原になった甲府市に住む子どもたちを音楽を通して元気付けようと始められた伝統あるものです。現在、甲府市内の4年生が代表となりブロック毎に開催されています。どの学校も特色を生かした内容、選曲になっていきます。今年は音楽そのもので勝負したいという想いから合唱曲を「大きな古時計」、合奏曲は「木星（ジュピター）」にしました。合唱曲は誰もが知っている曲であるため、細部にまで気を付けて歌うよう練習を重ねました。合奏は、楽器毎にパート練習を行いました。最初は、音を出すだけで嬉しくなってしまう時もありましたが練習を重ねていく中でお互いに教え合ったり、他の楽器と合わせようとすると前向きな姿勢が変わってきました。音も重なり、響くようになると自然と拍手も生まれてきました。仲間意識が合唱や合奏にも表れるようになりました。最後の一週間は、休み時間も返上して練習に取り組みました。声



を掛け合って練習に行く後ろ姿に成長を感じました。私の中でも練習通りやつてくれるという確信が持てた瞬間でした。

本番当日、大勢の児童の前でリズムをとりながら口を大きく開けた合唱ときれいなハーモニーと迫力のある合奏を披露してくれました。発表を終えて戻ってきた子どもたちの表情には達成感が見られました。学校の練習だけでなく、家庭に楽器を持ち帰り、練習を積み重ねた児童も多く見られました。達成感や充実感は努力を重ねた者にしか味わえないものです。音楽から得たもの、音楽を通して得たものは、人それぞれですが、みんなで作り上げるといふ共同作業や団結する事は一人では得られないものです。今回の音楽会に向けた練習をスタートさせる時に、「仲間」をテーマに掲げました。仲間がいるから自分は頑張れるのであり、自分がいるから仲間が頑張れるのだという話をしました。言葉の真意をどこまで汲み取ってくれたのか、子どもたちの中で仲間を意識する場面が見られたことはいずれも思います。



最後になりますが、この場を借りて保護者の皆様にも多大なるご協力をいただきましたこと、お礼申し上げます。

「公園へ行ったよー」

一学年主任 有野 真紀子

一年生七十七名は、六月二十五日梅雨の晴れ間に、生活科の学習で「山梨市万力公園」「笛吹川フルーツ公園」に行ってきました。大型バスでの初めての校外学習。友達と一緒に座れるのが嬉しくて、笑顔いっぱいでした。

「万力公園」では、フラミンゴや羽を広げた孔雀が迎えてくれました。滝のように流れる水や小川にも惹きつけられ、見る物一つ一つが子ども達には発見の連続のようでした。『どうぶつ広場』の観察や『こどもの広場』の遊具遊びでは、班の友達と大喜びで活動していました。

「フルーツ公園」では、まず、お家で作っていたいただいたお弁当を嬉しそうに広げ、友達と楽しくいただきました。ここでの最初の活動は、図工で作った船を浮かべて流すこと。流れが急なところで転覆したり帆が取れたり、それでも船が流れて大満足。続いて、アクアアスレチックを使つての水遊び。いかだ渡りや揺れる浮き球渡り、水へジャンプする遊具もあり、大はしゃぎ！ついには水の中に入り、下着までビッショリ。満面の笑顔の子ども達でした。

その後、雲がかかりポツポツと降り始めたので着替え始めると、大粒の通り雨が降ってきました。「急いで着替えて！」「カッパ着て！」等教師の声に大急ぎで着替えてバスに乗り込んだ子ども達。でも、その着替えの早いこと早いこと！いざとなるとできるものです。

自然の中では、子ども達には全てが学習。楽しい中にも様々な体験をした一日でした。

校外学習を終えて

三学年主任 小西 静穂

三年生は、六月十一日（火）に、校外学習に行ってきました。行き先は、山梨県立科学館です。大きな望遠鏡で太陽を見る計画もあり、お天気を心配しましたが、一日予定通りに行うことができました。

科学館の中には、子どもたちが直接触れたり動かしたりして、体験できるものも多くあります。頭で考えるだけでなく、手を使い時には足を使い、体全体を使って体験できる場所は、子どもたちにとって最高の学びの場です。限られた時間の中でしたので、体験できないものもありましたが、班のみんなで一緒に行動する楽しさや難しさを学びました。

工作では、万華鏡を作りました。出来上がった万華鏡をのぞいた子どもたちからは「きれい！」という声があがりました。楽しみにしていたお弁当は、みんなで外に出て食べました。楽しくて話してもたくさんしたので、持ってきたおやつを食べられなかった子供たちも多かったのではないのでしょうか。みんなで食べたお弁当は、本当においしいかったですね。

プラネタリウムで見た甲府の夜空は、星でいっぱいでした。たくさんの星のきらめきに引き込まれそうになりました。いつもは、意識して見上げることがない夜空ですが、今度は家族と一緒に見上げてみるのもいいのではないのでしょうか。

理科の学習を始めたばかりの三年生は、何事にも興味深々。これからもいろいろな不思議を楽しく学んでいってほしいと思っています。